



特定非営利活動法人

日本防災士会

奈良県支部 広報



Page2 広報 No.2 の発刊にあたって

日本防災士会奈良県支部に期待すること

Page3 「平成 20 年度奈良県防災功労者知事表彰（団体）」を受賞して

「平成 20 年度奈良県防災功労者知事表彰（個人）」を受賞して

Page4 防災士紹介 No.2 中川 徹氏

阪神・淡路防災研修会に参加して

防災士会入会のご案内

No.2 2009

写真：平成21年度奈良県防災総合訓練風景

広報 No.2 の発刊にあたって

日本防災士会奈良県支部は、平成20年4月27日発足しました。平成21年4月11日には発足1周年の総会を開催いたしましたところ、出席者の方々から多くの貴重なご意見を頂戴いたしました。また、8月現在の会員数は130名以上に上っています。

東海・東南海・南海地震も近くに発生すると言われていますが、本年の7月19～26日にかけて山口県と九州北部で記録的な豪雨となり、死者30人以上を出す大きな被害が発生しました。また、7月27日の午後2時ごろには、群馬県館林市を中心に竜巻が発生し、車30台・家屋240棟が損壊、21人が怪我をするという災害が発生しております。

今後、地球温暖化の影響等で益々自然災害が発生する確率が高まると言われ、益々防災士の皆様方の防災知識・技術のスキルアップの必要性が重要となってきました。その為にも支部では組織の見直し・部会の編成や多くの研修会を実施しております。又、役員の皆様には各地域で防災講演等実施して頂き、県民の方々には防災意識の向上のために努力して頂いておりますが、まだまだ会員の皆様が納得される支部には至っておりません。会員の皆様方には、各行事に多数参加され、良き知識を提供していただき、支部発展のために協力をお願いいたします。

日本防災士会 奈良県支部 支部長 **本本喜信**



日本防災士会奈良県支部に期待すること

本年7月に発生した中国・九州北部豪雨で、30名の犠牲者がでました。本県においても、このような風水害や、東南海・南海地震、奈良盆地東縁断層帯などの地震災害が懸念されており、防災は決して人ごとではありません。

このため、本県では、地域の自主防災活動と自主防犯活動を一体的に支援するため、平成19年11月に安全・安心まちづくり推進課を設置しました。自助・共助の取り組みについて啓発する講演会や県政出前トークの実施、リーダー養成のための研修の開催、活動のヒントとなるメールマガジンの配信等を行っています。詳細は、奈良県安全・安心まちづくり推進課のホームページをご覧ください。

防災・危機管理の第一人者である関西大学河田恵昭教授から当課が発行しているメールマガジンに寄稿いただきました。記事の中で、「災害が起こったときは、まず家族の安否確認が大切です。それが確認できれば、次は地域の安全・安心の確認です。自助や共助が災害対応の中心です。『大事なことは人任せしない』ことが生活の基本となります。災害が起こると『日頃やっていることしかできない』と、自助・共助の必要性や、日頃からの取り組みの重要性について述べられています。

日本防災士会奈良県支部の皆様は全員防災士です。防災士としてそれぞれの地域や職場で、リーダーとして防災力向上に向けた取り組みを期待しています。そして、奈良県支部には、県や市町村等と連携した様々な人的ネットワークのつなぎ手としての役割と、自主防災組織の組織化や活動のノウハウを持っていない地域等を支援していただくなど、幅広い活動を期待しています。

最後に、奈良県支部の皆様のますますのご健勝とご活躍を祈念しております。

奈良県危機管理監 **川端 修**



我々日本防災士会・奈良県支部のメンバーで、「平成20年度奈良県防災功労者知事表彰賞」を受賞されましたお二人の事例発表をさせていただきます。

「平成 20 年度奈良県防災功労者知事表彰（団体）」を受賞して

私が防災士の認証を取得した目的は、自分自身と家族の身の安全を守るためでした。そんな折、阪神・淡路大震災「5つの教訓」に衝撃を受け、地区の組織化へと駆り立てられました。

秋留地区自主防災組織が発足して2年後の平成20年9月7日、三郷町主催の「防災講演会」の講演依頼がありました。前半は「安全・安心まちづくり推進課」今谷課長、後半は私が担当させていただきました。そんなことがきっかけで三郷町総務課からのノミネートで、平成21年1月10日、「平成20年度奈良県防災功労者知事表彰」団体の部で受賞することができました。受賞時の活動報告の内容を一部紹介させていただきます。

- ① 我が家の転倒・飛来落下防止対策（金具でタンスを固定）
- ② 我が家の非常時対策（雨水を活用）
- ③ 会員から続々と寄贈して頂いた防災三種の神器
- ④ 救命講習会の実施状況
- ⑤ 自主防災活動における三つの悩みと解決の糸口について（イ）組織化するのにどうしたらいいのか？（ロ）なにを活動していけばいいのか？（ハ）マンネリ化を防止するにはどうしたらいいのか？
- ⑥ アクションプログラムによるP（プラン）・D（ドゥー）・C（チェック）・A（アクション）活動状況の結果と評価について

受賞した表彰状と盾は勢野自治連合会館に展示させて頂き、今後は表彰状に恥じないよう、更なる知識や技術のスキルアップと地区内外の方たちとのコミュニケーションを図り、防災意識の向上と組織率の拡大を目指し、勇気と熱意を持ってチャレンジする所存です。また7月に総務省消防庁「防災アドバイザー」に、「秋留地区自主防災会防災リーダー 大和武史」で登録申請しました。

奈良県支部 副支部長（秋留地区自主防災会 防災リーダー） **大和武史**



「平成 20 年度奈良県防災功労者知事表彰（個人）」を受賞して

東市地区は奈良市の南部にあり、ごく近辺に奈良市東縁断層帯が走っている場所にあります。私は、古市町自主防災会で取り組んだ経験を生かして、東市地区全体に防災・防犯を、という活動推進に努めました。その活動を認められて「平成20年度奈良県防災功労者知事表彰（個人）」を受賞しました。

私たち奈良市古市町自治会で、「自分達の町は自分達で守る。」を合言葉に、古市町各種団体に呼び掛け、平成17年9月に「安心して暮らせる町づくり」を目指し、市内で唯一の単独自治会で「自主防災組織」（古市町自主防災会）を結成しました。第1回自主防災訓練は平成18年3月5日に行い、奈良市消防局中央消防署の指導により、避難訓練・初期消火・応急手当・放水・炊きだし訓練等実施しました。また、防災士資格取得にも取り組み、私を含め4名の防災士がいます。第2回防災訓練では、町内一時避難所の点検を含め、大人だけでなく子供たちも参加して楽しみながら、避難テントの張り方を学習し、ハンゴウ炊飯・抵抗の少ない細いホースを使用した消火訓練も実施しました。

この間には、資器材・備蓄品・防災コンテナ等を購入しました。また、古市町自主防災会ではAED（自動体外式除細動器）を購入し、応急手当とAED操作講習会を中央消防署の指導のもと実施しました。また、応急手当指導員認定も2名認定されています。

この様な取り組みを東市地区全体にという機運が高まり、平成18年9月に東市地区自主防災・防犯協議会の設立へとつながりました。そして第1回東市地区合同防災訓練を平成20年2月17日に、県防災ヘリによる広報・散水訓練、避難・応急手当・消火・炊きだし訓練等を実施しました。また、平成21年3月8日に東市女性防災クラブも結成しました。防災防火等で啓発活動に頑張ってもらいたいと思っています。

日本防災士会 奈良県支部（古市町自主防災会会長） **中村正浩**



防災士紹介 No.2 中川 徹 氏 —防災士と地域貢献—

「自助・互助・協働」この言葉に惹かれて、私が防災士の資格を得たのは、平成18年10月でした。NPO法人日本防災士機構編集の「防災士教本」を教材に勉強したのが懐しく思われます。今も自治会長の私は、当時、地区自治会連合会長を兼ねていましたので、日々、地域の防災力を高めるにはどうしたら良いかを考えていました。これが防災士を志したきっかけでもありました。

あれから3年…。減災と地域防災力の強化を目指してまず取り組んだのは、住民への啓発・啓蒙と訓練でした。自治会組織を通じて、地震・風水害など防災の各種パンフレットを配布し、著名な地震学者らを招いて、講演・研修会を開催しました。消防署・消防団そして住民の連携による防災訓練は、地域で初めての試みでした。約550名の住民が得たのは、「自分の命は自分で守る。」「自分たちの町は自分たちで守る。」という貴重な体験でした。

地域の防災の担い手として、十分な活動が出来たかどうか、内心忸怩たるものがありますが、今後とも防災士として、年齢のハンディを超えて地域社会に貢献してゆきたく思っています。

日本防災士会 奈良県支部 顧問 中川 徹



阪神・淡路防災研修会に参加して

平成21年7月25日(土)に、奈良県支部として今年度第二回目の研修会を開催しました。参加者は15名で2台の車に分乗して現地に行きました。

神戸の阪神・淡路大震災記念館「人と防災未来センター」では、語り部から大震災当日の様子や地震体験を聴き、都市型震災を学習し、館内の展示物を見学しました。淡路市旧北淡町の「北淡震災記念公園・野島断層保存館」では、地表に現れた断層を見学しました。

今回の研修では、猛烈な地震の破壊力を目の当たりにし、自然の猛烈な力の前に人間は本当に微力だと感じました。そして人間の持つ技術と再生力をフルに活用し、減災に力を注ぐ以外に身を(命を)守る方法がないと気づかされました。

今後も教育部会では、防災に関するいろいろな企画で研修を行いますので、ご理解ご協力をお願いすると共に、多数のご参加をお待ちしております。

日本防災士会 奈良県支部 教育研修部会 部会長 西川隆清



防災士会入会のご案内

私どもは防災士として地域で防災に取り組んでいます！私達と一緒に防災士として活動しませんか？

ご入会の問合せは、下記事務局へ電話またはメールでお願いいたします。

●防災士の活動

- 防災士は、防災に関する基本的な知識と技能を有し、「災害への備え」を担います。
- 防災士は、社会全体の継続的な防災力向上をお手伝いします。
- 平常時には、日頃から地域や職場の防災活動に取り組む“ボランティア”です。
- 災害時には、公的支援が到着するまでの間に、被害の拡大を軽減するために活動します。

●防災士会は…

- 常に進化する防災知識や技能について、情報の提供に努めます。
- 防災士相互の協力促進に取り組みます。
- 個人では取組の難しい活動にも、団体として取り組みやすくなります。



編集後記

「自主防災活動」で、我々の仲間が知事表彰を受賞しました。今後益々、奈良県支部会員として、自助（わが身を守る）を根幹に、地域へ出て活動しようではありませんか！自助→共助（互助）・協働へ

広報部長 佐々木 章

■発行日：2009年10月12日

■発行者

日本防災士会奈良県支部 支部長 木本喜信
〒631-0014 奈良県奈良市朝日町2-395-10

■事務局

日本防災士会奈良県支部 事務局長 植村信吉
〒636-0215 奈良県磯城郡三宅町上但馬1-5
電話：090-8378-1106
Email: bousaishikai_nara@yahoo.co.jp